

進捗報告書（実行団体）

Version 1.0

2021年11月30日

[こちらの記載例](#)を参考に作成ください。

また、事業終了時の評価に関する[完了報告書のフォーマット\(暫定\)](#)はこちらです。

事業名:	社会的養護アフターケア事業
資金分配団体:	公益社団法人 ユニバーサル志縁センター
実行団体名:	認定 NPO 法人こどもの里
実施時期:	2021年7月～2022年2月
事業対象地域:	大阪市西成区周辺
事業対象者:	支援が必要な地域の若者、親子

I. 事業概要

事業概要

「こどもの居場所」であるこどもの里で関わる、要支援、要保護家庭の親子（主に母子）や社会的養護の施設出身の若者たちへの相談支援、伴走支援、訪問支援をしていく。コロナの影響による家庭や若者の孤立化を防ぐ。当事者を中心とした家族応援会議を試行する。必要な場合には食糧支援やコロナ対策物資の支援をし、行政サービス、医療サービスへとつなげる。また、コロナの影響により居場所を失った若者のための緊急一時宿泊所を準備する。よりより支援を行うためにスタッフは研修を行い、話し合いを重ねる。

II. 進捗報告の概要

総括

全体として順調に事業を実施している。ただ、第5波コロナウイルス感染拡大（2021年8～9月頃）の影響により家庭訪問や応援会議、スタッフ研修など密になる活動を十分に実施することができなかった。しかし、その間でも相談件数は通常通りあった。

まだ事業途中だが、事業を実施してみて目標としていた件数を上回っている。その理由は2つあると思われる。ひとつは、こどもの里では今回の事業を実施する前からアフターケアの活動を実施していたがあまり数値化することなく活動してきたからである。今回の助成事業で活動を数値化することで自分たちのアフターケア活動の具体的な数値として把握すると考えていた数値よりできていることがわかった。

ふたつは、今回の助成事業を申請したことでアフターケアをより意識的に活動していることで件数が増えているためである。特にこどもの里自立援助ホームでは積極的に退所した若者へ連絡をして訪問することができるようになった。以前はスタッフ個人の意思に委ねられていたが、今は“必要なこと”と意識されアフターケアを実施している。

Ⅲ.活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの里で生活相談をする ・こどもの里で関わった若者や家族などの当事者を伴走支援する ・こどもの里で関わった若者や家族の家へ訪問する ・生活困窮、地域で孤立している若者や家族に対して適宜必要な食料やコロナ対策物資の支援を行う ・家族応援会議をする ・こどもの里スタッフがスキルアップ研修を受ける ・こどもの里で若者たちが集まり、おいしい夕食を食べ、語り合い、絆を深める ・コロナなどの影響により、家に居場所がない若者に対して緊急一時宿泊所を提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活相談 目標値 1か月40件 平均値 105件（のべ422件） ・伴走支援 目標値 1か月8件 平均値 8.7件（のべ35件） ・訪問支援 目標値 1か月5件 平均値 7.7件（のべ31件） ・食料、コロナ対策支援 のべ40件 7-10月で9件 ・家族応援会議支援 目標値 1か月3件 平均値 2件（のべ8件） ・スタッフ研修 のべ4回 のべ3回 ・夕食会開催数 目標値 8件 のべ6回 <p>こどもの里を中心とした生活相談を中心した、当事者とのかわりの活動はできている。コロナによる活動自粛期間はあったが、適宜家に訪問し、関わりが深い当事者と家族応援会議を実施し、食料支援もできている（コロナ対策物資は11月から実施予定）。</p> <p>スキルアップ研修ではリスニングスキルやインナーチャイルドワークなどトラウマなどしんどさを抱える当事者とのさまざまな関わり方を学んでいる。</p> <p>若者の緊急的な居場所支援としてシェルター利用は10月から家に居場所がない若者の利用があった</p>

活動	進捗状況	概要
<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの里を中心として生活相談、伴走支援、家族応援会議などのサポート活動 ・こどもの里スタッフのスキルアップ研修 ・地域の困っている家庭、若者への食糧支援、コロナ対策物資支援 ・若者たちと夕食会 ・家に居場所がない若者のための緊急一時宿泊所 	<p>ほぼ計画通り</p>	<p>ほとんど事業計画どおりに活動をしている。こどもの里はもともと社会的養護が必要な当事者の支援活動を実施していたことが強みとしてあるので、それまでの活動を継続させるとともに今回の助成事業により強化することができている。</p>

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述

現在、こどもの里で実施している活動（こどもの遊び場、生活の場、相談の場、学びの場）を大切にしながらアフターケア活動の充実をはかりたい。現在の活動を維持していくとともに、18歳以上の若者たちが活動できるイベントや集まりの会を実施したい。

V. インプット

		2021年度	執行金額	執行率	
事業費	直接事業費	¥3530120	¥845087	24%	
	管理的経費	¥2000	¥440	22%	
合計		¥3532120	¥845527	24%	
補足説明		2021年10月末までの執行金額			

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応

コロナの感染拡大が起こった2021年8月中旬、こどもの里でもコロナ患者がでました。こどもの里に通うこども、スタッフに感染し、こどもの里は閉館。幸いこどもの里に住む館長とこどもたちは感染することはありませんでしたが、9名いるスタッフのうち4名が感染し、スタッフは出勤することができなくなりました。そんな中でもこどもの里には子育て相談や若者の相談がありました。こどもの里に住む館長ができるだけ対応することが乗り切ることができましたがコロナにより通常通り開館するまで数週間かかりました。開館してからはもう一度コロナ対策を見直しました。

また、事業実施のリスクはスタッフへの業務の負担もあります。今回の事業は法人自体のマンパワーが前提としてないと現場が疲弊してしまう。現場スタッフが疲弊してしまうとバーンアウトなどのリスクがでてくるため、当事者との関わりを維持するのは難しくなります。よってスタッフのメンタルケアが必要です。アフターケアに向いているスタッフ（当事者との関わりが得意な人）への負担が重くなることは避けないといけないので、周りのスタッフがアフターケア事業についてコンセンサスを持ち、そのスタッフをしっかりと支える体制を作っていくようスタッフミーティングなどで話し合いを重ねています。

VII. その他

自由記述

特になし

VIII. 広報実績

広報内容	有 無	内容
メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	無	
広報制作物等	無	
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	JANPIA の通報窓口を周知予定